

## 2010年11月8日に開催された公聴会の公述申請のために提出した意見骨子

### 意見骨子：

- ①城廻開発用地付近を流れる関谷川は、豊かな緑地が存在する現在でも、少し大雨が降ると氾濫している。開発後、緑地の保水力が消失したとき、氾濫被害はさらに悪化することが容易に予想される。
- ②現行の計画では、調整池容量が通常の基準で算定されているが、降雨直後に急速に水位上昇する関谷川の河川特性を考えると、それで問題ないのか、きわめて疑問である。とりわけ「ゲリラ豪雨」が常態化している昨今、先行き大いに懸念される。
- ③先ず水害の現況を把握した後、降雨の強度に応じた下流への影響をシミュレーションなどによって検証し、水害常習地区でも安全が確保されるような、調整池放流計画を作成する必要がある。

以上

### 参考写真：

☆公聴会直前の2010年10月28日に降った雨で増水した関谷川

場所：2枚とも市境下流200mほどにある小雀町（横浜市）内S氏宅付近。

時間：左：09:23 a.m. 右：09:24 a.m.



<左の1分後にはガードレールの脚が見えなくなっている>